



教えてください！

遊びのフィールド広がる、 信濃町の魅力はどこですか？

SHINANOMACHI
SPECIAL
INTERVIEW



平井 剛 (ひらい たけし)さん

サンデープランニング・ゲストハウスLAMPのスクール校長。兵庫県神戸市出身。学生時代にカヌー部に所属し、全国のカヌースクールでもバイオフィア的な存在だった同校で働きたい思いから、21歳だった1991年に信濃町へ。1年間、カヌーとスキーの技術を磨き、翌年、両インストラクター資格を取得。現在はスノーシューやクロスカントリーのツアーガイドなども務める。



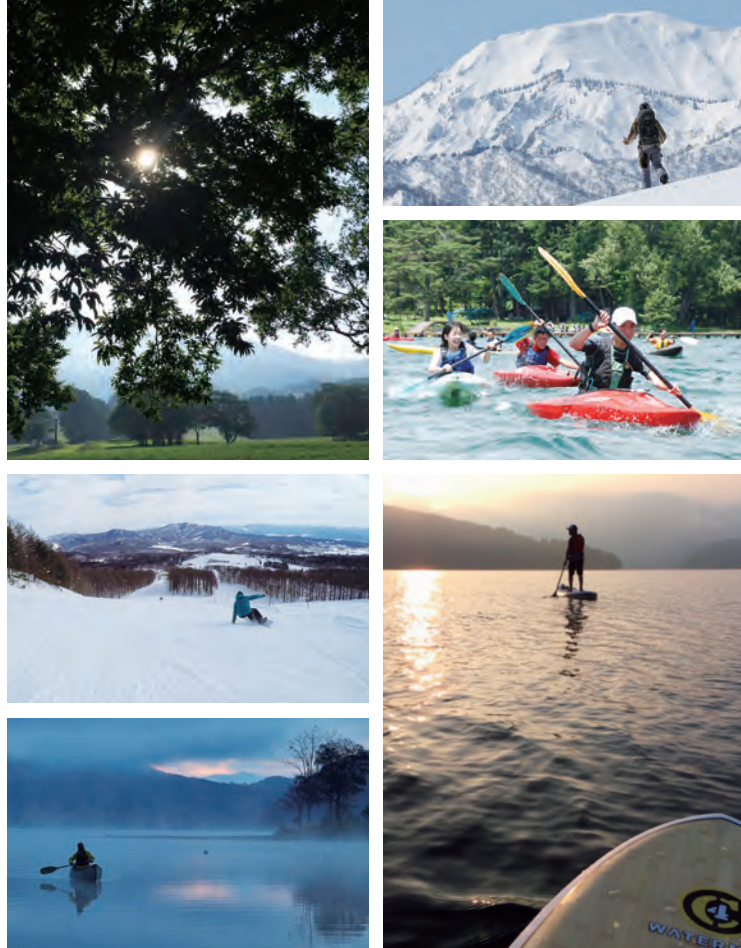
鬼頭 春菜 (きとう はるな)さん

プロスノーボーダー。滋賀県大津市出身。15歳でスノーボードを始め、16歳でニュージーランドへ。それを機にプロをめざし、翌年、単身で長野県白馬村に移住。その後、長野市に移住し、夏は海外を転々とした。2008年に信濃町に移住。冬は妙高や斑尾などを中心に腕を磨き、夏はSUPやサーフィンも楽しんでいる。



西田 幸平 (にしだ こうへい)さん

地域おこし協力隊産業観光課 商工観光・癒しの森係担当。東京都板橋区出身。元美容師。休日のたびにスノーボードやキャンプのために長野県を訪れ、特に北信地域が気に入っていたことから2016年7月に信濃町へ。1年半、カナダに留学していた経験もあるため、インバウンド事業も担当している。



「カヌーは自らの力だけで進め、川では流れにのって爽快感も抜群」と平井さん。鬼頭さんは信濃町の自然を「スノーボードとSUP、どちらにおいてもパーフェクト」と言います。西田さんは昔、引越しのアルバイトで黒姫高原を訪れ「いつかこんなところに住みたい」と思った願いが今、叶っています。

黒姫山や斑尾山といった北信五岳に囲まれ、野尻湖もあるなど、豊かな自然に恵まれた信濃町。そんな信濃町に移住し、自然を身近に感じながら生活をする3人に、遊ぶ環境としての町の魅力を聞きまして、それぞれの立場からどのようなことが語られるのでしょうか。

信濃町は自分にとって どんなところですか

西田「以前は山登りのために気合を入れて早起きして遠くまで車を走らせる必要があったのに、今は思い立つとすぐに行けるほど近くに自然があるところが魅力です。それに、東京では近所付き合いも薄かったのに、こっちは人と人の距離感も近くて新鮮。半年ほど前に地域おこし協力隊として移住したばかりなのに、最近では遠出していた帰りに黒姫山が見えてきた瞬間、ホッとします(笑)」

鬼頭「スノーボーダーとして見ると、信濃町の山の量が豊富なのに白馬などのリゾート地に比べ人も多くなくて滑りやすく、斜度があつて沢が多い地形も私好みです。それに、夏は野尻湖でのSUPや日本海のサーフィンを始めたらスノーボードのようにハマっちゃって(笑)。ここは山も湖もあって海も近くて、私にとって奇跡のような場所です。両親もこの町が気に入って、月に1回は来ているほど。それに、ICが近くてアクセスも便利。日本海に出れば北海道にフェリーで行けるのもいいですね。」

平井「四季折々、誰にも教えたくない自分の中のベストスポットがあります。夏はやはり野尻湖、冬は雪深い黒姫山の森の中がいいですね。夏は朝一のSUPがとても気持ちがいいんです。湖の真ん中に出て、斑尾山からの日の出によって妙高山が一気に明るくなる様子はひとつのポイント。そして、夕方は妙高と黒姫の間に日が沈むと紫色の空が広がっていくのも魅力です。冬はスノーシューやクロカンで道がないところや凍った池の上など、誰もいない世界に入っていくの

平井「カヌーの環境としても最高のロケーションですよ。北信五岳や北アルプスといったこの辺の山の水を蓄える力はすごくて、千曲川水系、信濃川水系という素晴らしい川がたくさんあります。私が働くサンデープランニング・アウトドアスクールの初代校長が全国を探した結果、ここをベースに構えた理由がよくわかります。それに、ウインタースポーツやハイキングをする環境にも恵まれてるし、朝起きてから天気を見て遊びに行くか決められるのは本当にすごい。住めば住むほど味が出てくる場所です。また、私には娘が二人いるのですが、泥々で帰ってくる彼女たちを見ていて、都会では得られない体験ができる場所です。できたのはよかったと思っています。」

最高のアクティビティ& スポットを教えてください

鬼頭「野尻湖ですね。休日はSUPを漕いだりと、いつもここで何かやっています。ただ、信濃町に住んだらいろいろ可能性が広がっていて、これから夏山登山もしたいし、いつかは畑も持ちたいと想像が膨らんで、気持ちが前向きになりますね。それに、私たちのよ

が楽しいですよ。また、視覚的に一番いいのは、春先から初夏の若葉のころ。淡い緑が広がり、山の上にはまだ雪が残っていて、グラデーションで色が変わって行く景色は見事です。これまた野尻湖の真ん中に出て黒姫山や妙高山を見ると感動しますね。」

西田「リラックスしたい時は黒姫高原の木陰など、その辺の芝生にゴザを敷いて寝転がって本を読んでいます。今はいろいろと楽しめる環境にいるので季節ごとに遊びたいと思っていますし、協力隊としてはインバウンド事業にも関わっているの、周辺市町村とも協力し、野尻湖を中心にしたシャトルバスツアーなどを展開していきたいらいいですね。」